

葡萄の香



日本基督教団
酒田教会

〒998-0037
酒田市日吉町
1-1-7
TEL 0234-22-1224
牧師 塚本恭子

マタイによる福音書二章一八〜二五節

その名はインマヌエル

東北学院大学教授佐藤司郎

聖書にはクリスマスのこと、イエス・キリストの誕生のことが、たくさん書いてあります。一番有名なのは、羊飼いたちが夜野宿しながら羊の番をしていると、突然天が明るくなり、天使たちが、神に栄光・地に平和と高らかに賛美したという話でしょうか。あるいは三人の博士が遠くから、贈り物をもって、大きな星の光に導かれて幼子イエスを拝みに来たという話でしょうか。どちらも大変有名です。あまりに有名なので、もともと別の話だったのが、降誕劇や、クリップと呼ばれる降誕の人形では羊飼いと博士がとうとう一緒に登場してきています。

この二つの物語とも、夜、あるいは暗闇を背景としています。その中に光の輝きが証しされます。東方の博士は、夜、星を観測しているとひととき大きな星が現れます。この星に導かれて、彼らは、幼子イエス・キリストまでたどり着きます。しかし博士たちが贈り物をささげてまた故郷へ帰ろうとしたとき、もうそこには、あの星は輝いていませんでした。再び暗闇が彼らをおおいます。彼らは「別の道」を通って故郷へ帰らざるをえませんでした。羊飼いのほうはどうでしょうか。こちらはそのところの消息がもつとはつきりしていません。夜です。突然天の一角が明るくなり、神の使いの賛美の音が響きわたります。それは一瞬のことで、闇と静寂さが、また彼ら羊飼�をおおう。暗闇に光が輝き、再び辺りは暗闇です。

クリスマスは、そうした暗闇に、光が現れること、現れたことです。夜、足もとのおぼつかない山道を歩いている旅人が、ちよつと

休んで目をあげて見ると、山の端がすでに明るく輝きはじめている、ちよつどそのようなこと、それがクリスマスだと思えます。

この差し込み始めた光の正体は何なのでしようか。今日読み上げた聖書の言葉の中に「インマヌエル」という言葉が出てきます。それが一つのヒントになります。それは「神は我々と共におられる」という意味でした。この称号が私たちに光の正体、イエス・キリストとは誰かを明らかにしています。

皆さんご存じのようにイエス・キリストはいろいろに呼ばれています。いくつかの名前があります。まずイエスです。これがもとの名前で、二世紀頃までのユダヤ人に多く見られる名前です。今日の聖書にあるように、天使が父であるヨセフに指示した名前です。そしてその意味は「自分の民を救う」ということだということも、ここに書いてあります。

意味はともかくふつうの人の名です。次にキリストです。これは名前ではなくて本来称号です。役務をあらわす呼び名です。メシアのギリシャ語訳で「油注がれた者」という意味です。それは、昔イスラエルの王が即位にさいして油注がれたことから来ています。イエスは王として世を治める方だということです。ただしこの王は、軍事力を用いたり、権力を

ふりかざして過酷な支配をする王ではありません。人を人として尊重し、人をその人らしく幸福にする王です。

そしてもう一つの呼び名で彼は呼ばれます。それがインマヌエルです。この言葉は新約聖書ではここにしか出てきません。しかも旧約聖書の引用の中で出てきています。旧約を背景に理解されるべき呼び名です。紀元前八世紀ユダの王アハズの時代です。ユダは周りの国から攻められます。バクには強大なアツスリアが控えていました。アハズは若くまだ二十代です。あわてふためいたのでしょうか。預言者イザヤの勧めはこうです。「落ち着いて、静かにしていなさい。恐れることはない。…信じないければ立つことはできない」。信なくば立たず、という有名な言葉です。しかしアハズ王は神信仰にちゃんと立とうとしない。そこでイザヤは神自らが救いの約束を一つのしるしとして与えるという神のお告げを直接民に語り伝えるのです。それがマタイ二章二三節に引かれている言葉です。若い女性が男子を産み、その子にインマヌエルという名をつける、そのこと自体が神の救いの約束のしるしだということです。いま一人の若い女性、マリヤら男子が生まれようとしている、イエスという名が彼には与えられるであろう。そ

れが救いのしるしだと。どんなときにも神が共にいてくださる、これがこの世に光が差し込んだことの意味です。

二十世紀を代表した神学者のカール・バルト、一九六八年一二月のアドベント、その死の前日、六十年來の友人トウルナイゼンと電話で暗い世界情勢について会話を交わし最後に彼はこう言ったと伝えられています。「しかし意気消沈しちやだめだ。絶対に。主が支配したもうのだからね」。クリスマスとは、どんなときも神は私たちの主として共におられるという私たちの希望の源なのです。

(1月20日クリスマス礼拝)

クリスマス献金

会計長老曾根原澄子

中林撰・チヨ 宮城光信・妙子 佐藤フサ
大沼隆・潤子 斎藤健 鈴木重良・葉子
塚本文一 井田一郎 阿部春美 渡邊智子
望月恵子 奥山勘次郎 奥山美保子
白戸勝芳 目黒律子 庄司美和・愛乃
海野敏昭 佐藤信子 富樫峰子 伊藤唯
横山とよ子 谷口久美 齋藤恵理香

今井智代 佐藤加奈 宍戸理恵

奥山朋子 丸山恵美子 柿崎育子

大高美保子 堀口ふき子 堀口誠治

齋藤正典・和子 齋藤造酒雄 高橋純子

齋藤りゑ 奥山明子 帯谷修一・美恵子

齋藤啓和子 曾根原東・澄子 塚本恭子

宮城学園同窓会 双葉会一同 匿名

右記の通り感謝をもつてご報告致します。

なお、クリスマス献金は、牧師の特別謝儀、社会福祉関係献金、礼拝用リードオルガン修理代の一部とさせていただきます。

冬桜

長老 奥山明子

若き日の母と仰ぎし冬北斗

病床の師の手力てじからや冬桜

吹き荒ぶ雪中を行くコンサート

ポインセチア玄関に立つ師の笑ひ

年用意合間に人來電話鳴る

牧師館便り

★皆様お元気ですか。

「葡萄の香」第十三号をお送りします。酒田の冬は強風と雪です。昼は気温が上がり、雪が溶けて夜に凍るというこの温度差は危険な道路を造ります。転倒が怖いので出来るだけ外出を控えています。その上、正月休みから、園児の風邪と急性胃腸炎が流行して年寄り園長は体調崩シツパンシです。まだ風邪が抜けません。

★今年度は洗礼者が二名与えられ感謝です。特に、酒田ふたば園の教頭が受洗したことは、これからの園の教育と保育に大変な貢献になることを思い、主の御計画に感謝しています。

★教会付属幼稚園と託児園は、園児が2年度20名になる予定ですが、新庄こひつじ学園から独立して酒田双葉学園となり、齋藤正典氏が理事長になります。園長は牧師が兼任します。引き続きよろしく願います。

★今聖書研究会は「使徒言行録20章」に入り、私がこの夏に「パウロの伝道旅行を訪ねて」に参加して、パウロのローマでの

生活と伝道の足跡を辿ったことが聖書研究会を楽しくしています。私が写した写真をもとにパウロが投獄されたフォロローマノパウロが住んだ家。パウロの伝道した場所に建てられたサンパウロ・アラレゴラ教会。アツピア街道。サンパウロ・フォーリレムーラ教会。トレ・ファンターネ教会、などを紹介しています。

★愛犬ノンノン元気。酒田の冬雷が大嫌いで、抱っこをおねだりしています。時には雪の中を暴走して、先生方の雪かきの邪魔をしています。(塚本恭子)